



のでしょうか。文部科学省では、直接的な体験活動が欠かせないとし、その中でも感性を最大限に伸ばす可能性があるのは「見る・聞く・味わう・嗅ぐ・触れる」を総動員できる自然体験であると述べています。

## ビオトープの活用の一例

「乳児、幼児のビオトープとのかかわり方は？」

園庭ビオトープに関して、時々、このような質問も寄せられます。私たちの協会では、1999年から隔年で全国学校・園庭ビオトープコンクール（後援：厚生労働省・全国私立保育園連盟ほか）を催しています。このコンクールで受賞した事例から、一例をご紹介します。

「0歳児は主に草むしり。園庭ビオトープの周囲でいろいろ草を触ってはずっとむしり続けています。1歳児になると、勇気をもって草はらの中を分け入り冒険が始まります。2歳になると草花や木の実を集めてままごと。材料はいろいろ。園児ごとに異なる弁当が出来上がります。3歳児は虫探しに夢中。虫を捕まえるために工夫が生まれます。4歳児からは調べる活動が増えていきます。『なんで、この虫、いつもここにいるの?』『この葉っぱ、誰が食べているの?』。遊びを通じて気が付いたことや疑問から調べる活動が増えていきます。」

このように、園庭ビオトープはそれぞれの発達段階で園児の主体的な遊びを促します。

この主体的な遊びは、保育において重要視されます。園児が主体的に遊ぶためには、園児自身がまず「おもしろい」と思うものを見つけ出す必要があります。園庭ビオトープは園児の身近にあり、園児は常に出入りをしているため、どこに何があるのかを一番よく知っています。園庭ビオトープがあることにより、保育者の少ない援助で、園児の主体的な遊びが始まります。

## 活動は環境から他領域へ

園庭ビオトープは、園児の様々な好奇心を高め、

活動を広げるきっかけを与えてくれます。

富田林市立青葉丘幼稚園（大阪府）では、ひと夏、園児たちがアマガエルに夢中の時がありました。その夏は、園児はアマガエルが好きすぎて、登園すると、ほぼ全員手作りのカエルの面を頭につけて、アマガエルになって一日をすごすほどに。

このきっかけは、一人の園児がセミの幼虫が抜け出た地面の穴から、アマガエルが顔を出しているのを発見したことでした。その園児は、地面に開いた幾つもの穴の一つひとつにカエルが潜んでいたことから、この地面の下にはカエルの大都市があるのだと想像を膨らませました。そして、他の園児がこの上を踏みつけて騒がしくしないように、ここでは静かにすることを伝える小さな立て札を作り、穴の脇に刺し始めました。それを見ていた他の園児も一緒になって作り出し、気がつくと、園児全員がカエルを大好きになっていました。

その後は保育者の上手な援助で、室内で大きな模造紙に、地下にあるアマガエルの大都市を想像してみんなで描いてみたり（写真②）、それをダンボールで立体的に作ってみたり。アマガエルを題材に、園児の活動は、環境の領域から「友だちとの関わり」「思いやり」「創造」など、人間関係や表現の領域に広がっていきました。

このように、園庭ビオトープでの不思議との出会い、園児の興味関心を引きつけ、活動を多方面に広がっていきます。

写真②





# 自然が持つ 保育力を 生かす

2

## 園庭ビオトープを設置する理由

田邊龍太

Ryota TANABE

(公財) 日本生態系協会教育研究センター長

### ドイツの園が考えたこと

「園児の発達に必要な環境が、園に整っているかを見直しました」

これは、私たちの協会が毎年企画する、ドイツ園庭ビオトープ視察ツアーで訪問する園からよく述べられる「園庭ビオトープを設置した理由」です。保育環境の見直しの一環として、砂場と人工的な遊具のみであった園庭の一部を盛土し、起伏をつけて、草や木を生やし、ビオトープ化したというのです(写真①)。

園庭ビオトープを設置した理由をさらに問うと、次のような回答が寄せられます。

- ・豊かな感性を育む環境を目指したかった。
- ・動と静の遊びなど、多様な遊びを促したかった。
- ・友だちどうしが相談しながら遊び、社会性を育む環境にしたかった。
- ・様々な遊びを通じて、独創性や創造性を育みたかった。
- ・自然について、体験的に理解を促したかった。

ドイツでは、園庭をビオトープ化することが豊かな感性を育むことにとっても有効であるとの認識のもと、州政府でも積極的に支援する傾向にあります。例えば、ノルトライン＝ヴェストファーレン州やザクセン州などは『自然いっぱいの園づくりの手引き』

写真①



を発行したり、園庭のコンクールを開催したりしています。コンクールでは、「五感を駆使できる要素が整っているか」「子どもの精神的・社会的・肉体的能力の向上に役立つ活動に結びついているか」などが評価観点になっています。

### 豊かな感性を育みたい理由

では、なぜ豊かな感性を育むことが大切なのでしょう。

文部科学省では、感性を「様々な事象から良さや美しさなどの価値や心情を感じ取る力」と説明しています。感性が豊かだと、日々の暮らしの中で様々な気づきや感動に出会う頻度が増します。感性は、他者の心情を感じとるコミュニケーション能力にも欠かせないとされています。

こうしたことから、文部科学省の中央教育審議会では、感性を「より良い暮らし、より良い社会を創造するために大切な能力」と位置づけています。

この感性を豊かにするためには、どうすればいい